

37. 西欧中世の衣服の研究（第4報）

（現代の服飾デザインに与えている影響について）

大阪市大 林田喜美子

1. 西欧中世の衣服をチャーサーのカンタベリー物語を手がかりとして研究をはじめてから、範囲を拡げて、中世衣服全般についてその特色をつかむことに努力して来たが、今回は中世の衣服が現代の服飾デザインに、どの程度に影響を与えているかを調べてみることにした。

2. 1955年から1961年迄のフランス版のヴォーグに記載された服飾デザインの中で、中世の衣服の影響が全体に、或は部分にあらわれていると考えられるものをぬき出して、そのもとの形と思われるものと比較し分類整理する事にした。

3. 他の時代に比べて、中世のものは現代の服飾に非常に大きい影響を与えているとはいえない。又時代によって波がある。しかし中世初期のローウエスト、後期のハイウエストは現代でも用いられ、胸部を美しく強調すること、その為の紐締め、フレイヤースカート、タイトな袖、ボーダーの装飾等は現代にも通じていて、全体のシルエットもよく似ている。首飾りその他の宝飾品を多く用いる事や、工夫をこらした結髪等は現代と共通点がある。特にイヴニングドレスやネグリジェ等の非活動的な部門に於て非常に多く中世衣服の影響が見られた。